



【学校教育目標】

Treasure Island

笑顔いっぱい

～気づき、考え、行動する 高島っ子を育てる～

長崎市立高島小中学校 校長 宇土 衛



平和ってなんだろう

今から79年前の今日この日。長崎に1発の爆弾が落とされました。通常の爆弾とは違う、「原子爆弾」と呼ばれるこの恐ろしい殺人兵器は、一瞬のうちに長崎の町を焼き尽くし、そこに暮らす人々の尊い命を奪ったのです。さらにこの原子爆弾による被害は今も続いており、その被害者は延べ10万人をゆうに超えています。今日、高島小中学校では前半に小中それぞれで平和学習の発表会を行い、後半に全校児童・生徒による「平和集会」が開かれました。後半の平和集会では、「平和宣言」を発表し、充実した平和学習となりました。

さて、少し古い話になりますが、10数年前の8月7日付けの長崎新聞に、原爆によって被爆された滝川セキさんの話が載っていました。とても印象深く読ませていただいたのを覚えています。

「反核・平和の訴えを受け継いでくれる人は、いつかなくなるかもしれない。若い人はどうしたら目を向けてくれるだろうか。みんな仕事もあるだろうし、考え方も違う。無理強いはできない。どうすればいいかわからない。ただ、自分はこれからも、いつまでも訴え続けようと決めている。あの日の惨状を目に焼き付けた一人として。」

この「反核・平和の訴え」は、現在、【家族証言者】や【交流証言者】と呼ばれる方々へ受け継がれており、長崎から平和の灯が消えることは決してない！と思います。（今年度、小学生は【家族証言者】原田小鈴さん、中学生は【家族証言

者】近江義則さんの平和講話を拝聴しました。）
また、今日の全体での平和集会、校長講話の中で、次のような学校以外での平和への取組について話しました。

長崎市民平和憲章

被爆地長崎に住む市民の使命として、核兵器の廃絶と世界平和の実現に努めることを宣言したもの

青少年ピースフォーラム

全国から中学生が長崎に集い、平和への思いや考えを語り合う会

高校生平和大使

全国から選ばれた高校生が、署名活動しながら平和のメッセージを全世界に向けて発信する活動

家族証言者・交流証言者講話

被爆された方々の体験や思いを語り継ぐ、その家族や若者による被爆体験講話



【喉もと過ぎれば熱さを忘れる】そんな諺がありますが、戦争に関してはそれでは絶対にいけないのです。私も実際の戦争は知りませんし、その苦しみも直接には感じるできません。しかし戦争の話聞くだけでも、また、そのことを誰かと語り合うだけでも恐ろしさを感じる事ができ、それが「平和を！」と願う気持ちになるのではないのでしょうか。

今日一日は、日頃あまり考えない戦争について、今、私たちの周りにある平和について、ぜひ家族みんなまで考えてみていただけたらと思います。



左は【青少年ピースフォーラムでの一場面】

右は【高校生1万人署名活動】 どちらも長崎市のHPより